

調査地点位置図 S=1:1500

ボーリング柱状図

調査名 地質調査委託

ボーリングNo. 57400538001

事業・工事名

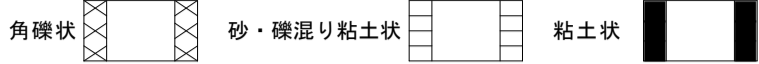
シートNo.

ボーリング名	No.1	調査位置	(仮称) 仙南クリーンセンター (角田市毛萱字西ノ入地内)			北緯	38° 01' 44.3000"	
発注機関	仙南地域広域行政事務組合		調査期間	平成24年 8月 7日～平成24年 8月 8日		東経	140° 43' 40.9000"	
調査業者名	東北ボーリング株式会社 電話 022-288-0321		主任技師	遠藤 廣行		現代理人	菊地 真	
孔口標高	H 32.37m	角	180° 上 90° 下		方	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南		
総掘進長	10.05m	度	0°		向	水平 0° 鉛直 90°		
使用機種	試錐機 東邦D-1		ハンマー 半自動型		コ鑑定者	菊地 真		
	エンジン NFD-9		ポンプ BG-3B		ボーリング責任者	後藤 謙太		

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	変質	記号	コア採取率 —x— (%)	最大コア長 --- cm	RQD — [%]	岩級区分	孔内水位/測定月日	標準貫入試験		原位置試験	室内試験	掘進状況				
																深度 m	打撃回数 — 貫入量 回/cm			N値	掘進 月日	掘進 速度 cm/時	孔径/孔壁 保護	コアチューブ/ ビット
1			火山灰質粘土	褐	青灰											1.15	9/30	物理的 一軸 2.70						
2		2.15														7/30								
3		3.15														6/30								
4	28.37	4.00														3.45	6/30							
5			火山礫凝灰岩	暗緑灰		VII d δ 2										4.15	32/30							
6																5.15	50/25							
7																6.15	50/22							
8	24.67	7.70														7.15	50/17							
9			凝灰質シルト岩	暗緑灰		I b										8.05	50/15							
10																9.05	50/7							
																10.00	50/5							
	22.32	10.05														10.05	50/5							

< 凡 例 >

断層・破碎帯・変質帯



風化区分表

記号	風化の程度
α	非常に新鮮である。
β	新鮮である。層理面、劈開に沿ってわずかに変色があり割れ易い。
γ	弱風化している。層理面、劈開に沿って風化している。
δ	風化している。岩芯まで風化している。ハンマーで簡単に崩せる。
ϵ	強風化している。褐色化し、指先で簡単に崩すことができる。

変質区分表

記号	変質区分	変質状況
1	非変質	肉眼的に変質鉱物が認められないもの。
2	弱変質	原岩組織を完全に残し、変質程度が低いもの。または、非変質部の割合が肉眼で50%以上のもの。
3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判断できるが原岩組織を明らかに残し、原岩判定が容易なもの。または、非変質部を残すものおよび網状変質部。
4	強変質	構成鉱物、岩片等変質鉱物で完全置換され、原岩組織を全くほとんど残さないもの。

コア硬軟区分判定表

記号	硬軟区分
A	極硬、ハンマーで容易に割れない。
B	硬、ハンマーで金属音。
C	中硬、ハンマーで容易に割れる。
D	軟、ハンマーでポロポロに碎ける。
E	極軟、マサ状、粘土状。

コア形状区分判定表

記号	模式図	コア形状
I		長さが50cm以上の棒状コア。
II		長さが50~15cmの棒状コア。
III		長さが15~5cmの棒状~片状コア。
IV		長さが5cm以下の棒状~片状コアでかつコアの外周の一部が認められるもの。
V		主として角礫状のもの。
VI		主として砂状のもの。
VII		主として粘土状のもの。
VIII		コアの採取が出来ないもの。スライムも含む。(記事欄に理由を書く)

コア割れ目状態判定表

記号	割れ目状態区分
a	密着している。あるいは分離しているが割れ目沿いの風化・変質は認められない。
b	割れ目沿いの風化・変質は認められるが、岩片はほとんど風化・変質していない。
c	割れ目沿いの風化・変質は認められ軟質となっている。
d	割れ目として認識できない角礫状、砂状、粘土状コア。

岩級区分基準表

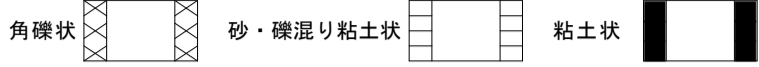
口電研方式

岩級	特徴
A	きわめて新鮮なもので造岩鉱物および粒子は風化、変質を受けていない。キレツ、節理はよく密着しそれらの面に沿って風化の跡は見られないもの。ハンマーによって打診すれば澄んだ音を出す。
B	岩質堅硬で開口した(たとえ1mmでも)キレツあるいは節理はなく、よく密着している。ただし、造岩鉱物および粒子は部分的に多少風化、変質が見られる。ハンマーによって打診すれば澄んだ音を出す。
C H	造岩鉱物および粒子は石英を除けば風化作用を受けてはいるが岩質は比較的堅硬である。一般に褐鉄鉱などに汚染せられ、節理あるいはキレツの間の粘着力はわずかに減少しており、ハンマーの強打によって割れ目に沿って岩塊が剥脱し、剥脱面には粘土質物質の薄層が残留することがある。ハンマーによって打診すれば濁った音を出す。
C M	造岩鉱物および粒子は石英を除けば風化作用を受けて多少軟質化しており、岩質も多少軟らかくなっている。節理あるいはキレツの間の粘着力は減少しており、ハンマーの普通程度の打撃によって、割れ目に沿って岩塊が剥脱し、剥脱面には粘土質物質が残留することがある。ハンマーによって打診すれば多少濁った音を出す。
C L	造岩鉱物および粒子は風化作用を受けて軟質化しており、岩質も軟らかくなっている。節理あるいはキレツの間の粘着力は減少しており、ハンマーの打撃によって、割れ目に沿って岩塊が剥脱し、剥脱面には粘土質物質が残留する。ハンマーによって打診すれば濁った音を出す。
D	岩石鉱物および粒子は風化作用を受けて著しく軟質化しており、岩質も著しく軟らかい。節理あるいはキレツの間の粘着力はほとんどなく、ハンマーによってわずかな打撃を与えるだけでくずれ落ちる。剥脱面には粘土質物質が残留する。ハンマーによって打診すれば著しく濁った音を出す。

備考

< 凡 例 >

断層・破碎帯・変質帯



風化区分表

記号	風化の程度
α	非常に新鮮である。
β	新鮮である。層理面、劈開に沿ってわずかに変色があり割れ易い。
γ	弱風化している。層理面、劈開に沿って風化している。
δ	風化している。岩芯まで風化している。ハンマーで簡単に崩せる。
ϵ	強風化している。褐色化し、指先で簡単に崩すことができる。

変質区分表

記号	変質区分	変質状況
1	非変質	肉眼的に変質鉱物が認められないもの。
2	弱変質	原岩組織を完全に残し、変質程度が低いもの。または、非変質部の割合が肉眼で50%以上のもの。
3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判断できるが原岩組織を明らかに残し、原岩判定が容易なもの。または、非変質部を残すものおよび網状変質部。
4	強変質	構成鉱物、岩片等変質鉱物で完全置換され、原岩組織を全くほとんど残さないもの。

コア硬軟区分判定表

記号	硬軟区分
A	極硬、ハンマーで容易に割れない。
B	硬、ハンマーで金属音。
C	中硬、ハンマーで容易に割れる。
D	軟、ハンマーでポロポロに碎ける。
E	極軟、マサ状、粘土状。

コア形状区分判定表

記号	模式図	コア形状
I		長さが50cm以上の棒状コア。
II		長さが50~15cmの棒状コア。
III		長さが15~5cmの棒状~片状コア。
IV		長さが5cm以下の棒状~片状コアでかつコアの外周の一部が認められるもの。
V		主として角礫状のもの。
VI		主として砂状のもの。
VII		主として粘土状のもの。
VIII		コアの採取が出来ないもの。スライムも含む。(記事欄に理由を書く)

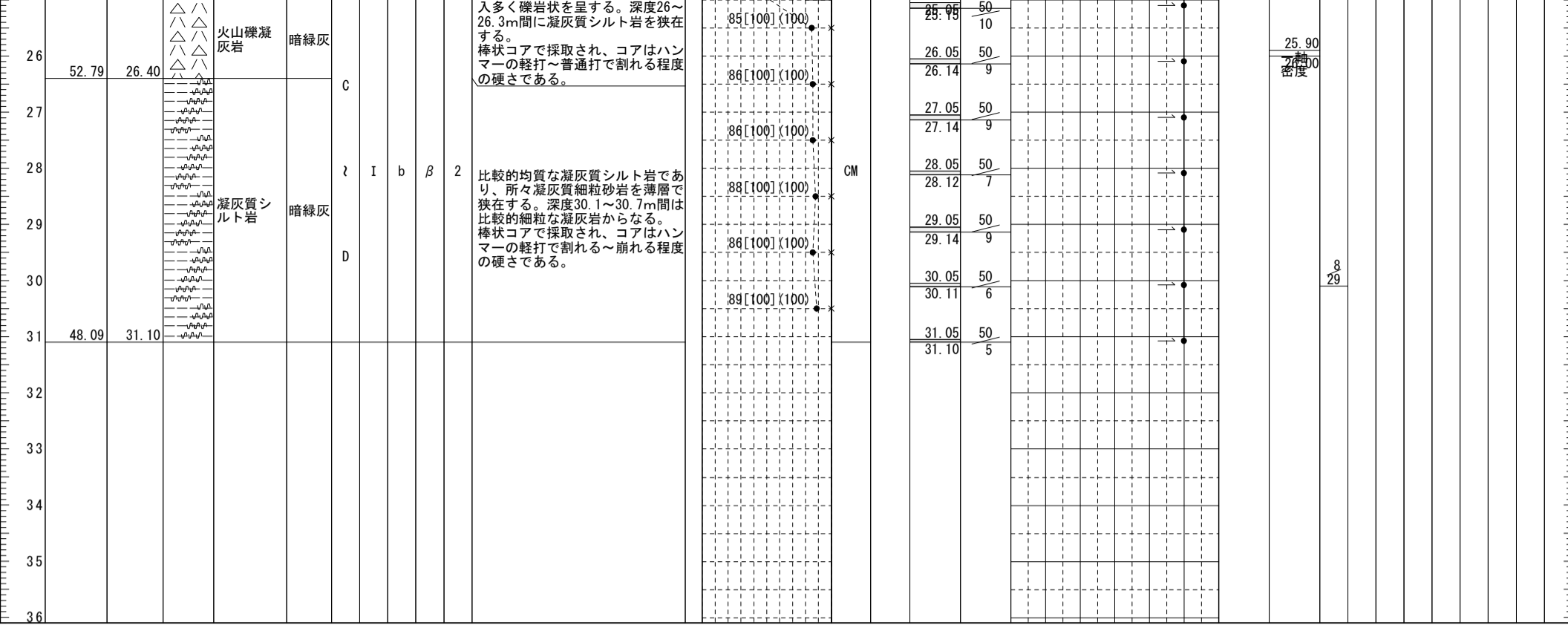
コア割れ目状態判定表

記号	割れ目状態区分
a	密着している。あるいは分離しているが割れ目沿いの風化・変質は認められない。
b	割れ目沿いの風化・変質は認められるが、岩片はほとんど風化・変質していない。
c	割れ目沿いの風化・変質は認められ軟質となっている。
d	割れ目として認識できない角礫状、砂状、粘土状コア。

岩級区分基準表

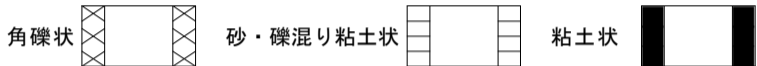
岩級	特徴
A	きわめて新鮮なもので造岩鉱物および粒子は風化、変質を受けていない。キレツ、節理はよく密着しそれらの面に沿って風化の跡は見られないもの。ハンマーによって打診すれば澄んだ音を出す。
B	岩質堅硬で開口した(たとえ1mmでも)キレツあるいは節理はなく、よく密着している。ただし、造岩鉱物および粒子は部分的に多少風化、変質が見られる。ハンマーによって打診すれば澄んだ音を出す。
C H	造岩鉱物および粒子は石英を除けば風化作用を受けてはいるが岩質は比較的堅硬である。一般に褐鉄鉱などに汚染せられ、節理あるいはキレツの間の粘着力はわずかに減少しており、ハンマーの強打によって割れ目に沿って岩塊が剥脱し、剥脱面には粘土質物質の薄層が残留することがある。ハンマーによって打診すれば濁った音を出す。
C M	造岩鉱物および粒子は石英を除けば風化作用を受けて多少軟質化しており、岩質も多少軟らかくなっている。節理あるいはキレツの間の粘着力は減少しており、ハンマーの普通程度の打撃によって、割れ目に沿って岩塊が剥脱し、剥脱面には粘土質物質が残留することがある。ハンマーによって打診すれば多少濁った音を出す。
C L	造岩鉱物および粒子は風化作用を受けて軟質化しており、岩質も軟らかくなっている。節理あるいはキレツの間の粘着力は減少しており、ハンマーの打撃によって、割れ目に沿って岩塊が剥脱し、剥脱面には粘土質物質が残留する。ハンマーによって打診すれば濁った音を出す。
D	岩石鉱物および粒子は風化作用を受けて著しく軟質化しており、岩質も著しく軟らかい。節理あるいはキレツの間の粘着力はほとんどなく、ハンマーによってわずかな打撃を与えるだけでくずれ落ちる。剥脱面には粘土質物質が残留する。ハンマーによって打診すれば著しく濁った音を出す。

備考



< 凡例 >

断層・破碎帯・変質帯



コア硬軟区分判定表

記号	硬軟区分
A	極硬、ハンマーで容易に割れない。
B	硬、ハンマーで金属音。
C	中硬、ハンマーで容易に割れる。
D	軟、ハンマーでポロボロに砕ける。
E	極軟、マサ状、粘土状。

コア割れ目状態判定表

記号	割れ目状態区分
a	密着している。あるいは分離しているが割れ目沿いの風化・変質は認められない。
b	割れ目沿いの風化・変質は認められるが、岩片はほとんど風化・変質していない。
c	割れ目沿いの風化・変質は認められ軟質となっている。
d	割れ目として認識できない角礫状、砂状、粘土状コア。

備考

風化区分表

記号	風化の程度
α	非常に新鮮である。
β	新鮮である。層理面、劈開に沿ってわずかに変色があり割れ易い。
γ	弱風化している。層理面、劈開に沿って風化している。
δ	風化している。岩芯まで風化している。ハンマーで簡単に崩せる。
ε	強風化している。褐色化し、指先で簡単に崩すことができる。

変質区分表

記号	変質区分	変質状況
1	非変質	肉眼的に変質鉱物が認められないもの。
2	弱変質	原岩組織を完全に残し、変質程度が低いもの。または、非変質部の割合が肉眼で50%以上のもの。
3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判断できるが原岩組織を明らかに残し、原岩判定が容易なもの。または、非変質部を残すものおよび網状変質部。
4	強変質	構成鉱物、岩片等変質鉱物で完全置換され、原岩組織を全くほとんど残さないもの。

コア形状区分判定表

記号	模式図	コア形状
I		長さが50cm以上の棒状コア。
II		長さが50～15cmの棒状コア。
III		長さが15～5cmの棒状～片状コア。
IV		長さが5cm以下の棒状～片状コアでかつコアの外周の一部が認められるもの。
V		主として角礫状のもの。
VI		主として砂状のもの。
VII		主として粘土状のもの。
VIII		コアの採取が出来ないもの。スライムも含む。(記事欄に理由を書く)

岩級区分基準表

岩級	特徴
A	きわめて新鮮なもので造岩鉱物および粒子は風化、変質を受けていない。キレツ、節理はよく密着しそれらの面に沿って風化の跡は見られないもの。ハンマーによって打診すれば澄んだ音を出す。
B	岩質堅硬で開口した(たとえ1mmでも)キレツあるいは節理はなく、よく密着している。ただし、造岩鉱物および粒子は部分的に多少風化、変質が見られる。ハンマーによって打診すれば澄んだ音を出す。
C H	造岩鉱物および粒子は石英を除けば風化作用を受けてはいるが岩質は比較的堅硬である。一般に褐鉄鉱などに汚染せられ、節理あるいはキレツの間の粘着力はわずかに減少しており、ハンマーの強打によって割れ目に沿って岩塊が剥脱し、剥脱面には粘土質物質の薄層が残留することがある。ハンマーによって打診すれば濁った音を出す。
C M	造岩鉱物および粒子は石英を除けば風化作用を受けて多少軟質化しており、岩質も多少軟らかくなっている。節理あるいはキレツの間の粘着力は減少しており、ハンマーの普通程度の打撃によって、割れ目に沿って岩塊が剥脱し、剥脱面には粘土質物質が残留することがある。ハンマーによって打診すれば多少濁った音を出す。
C L	造岩鉱物および粒子は風化作用を受けて軟質化しており、岩質も軟らかくなっている。節理あるいはキレツの間の粘着力は減少しており、ハンマーの打撃によって、割れ目に沿って岩塊が剥脱し、剥脱面には粘土質物質が残留する。ハンマーによって打診すれば濁った音を出す。
D	岩石鉱物および粒子は風化作用を受けて著しく軟質化しており、岩質も著しく軟らかい。節理あるいはキレツの間の粘着力はほとんどなく、ハンマーによってわずかな打撃を与えるだけでずれ落ちる。剥脱面には粘土質物質が残留する。ハンマーによって打診すれば著しく濁った音を出す。

ボーリング柱状図

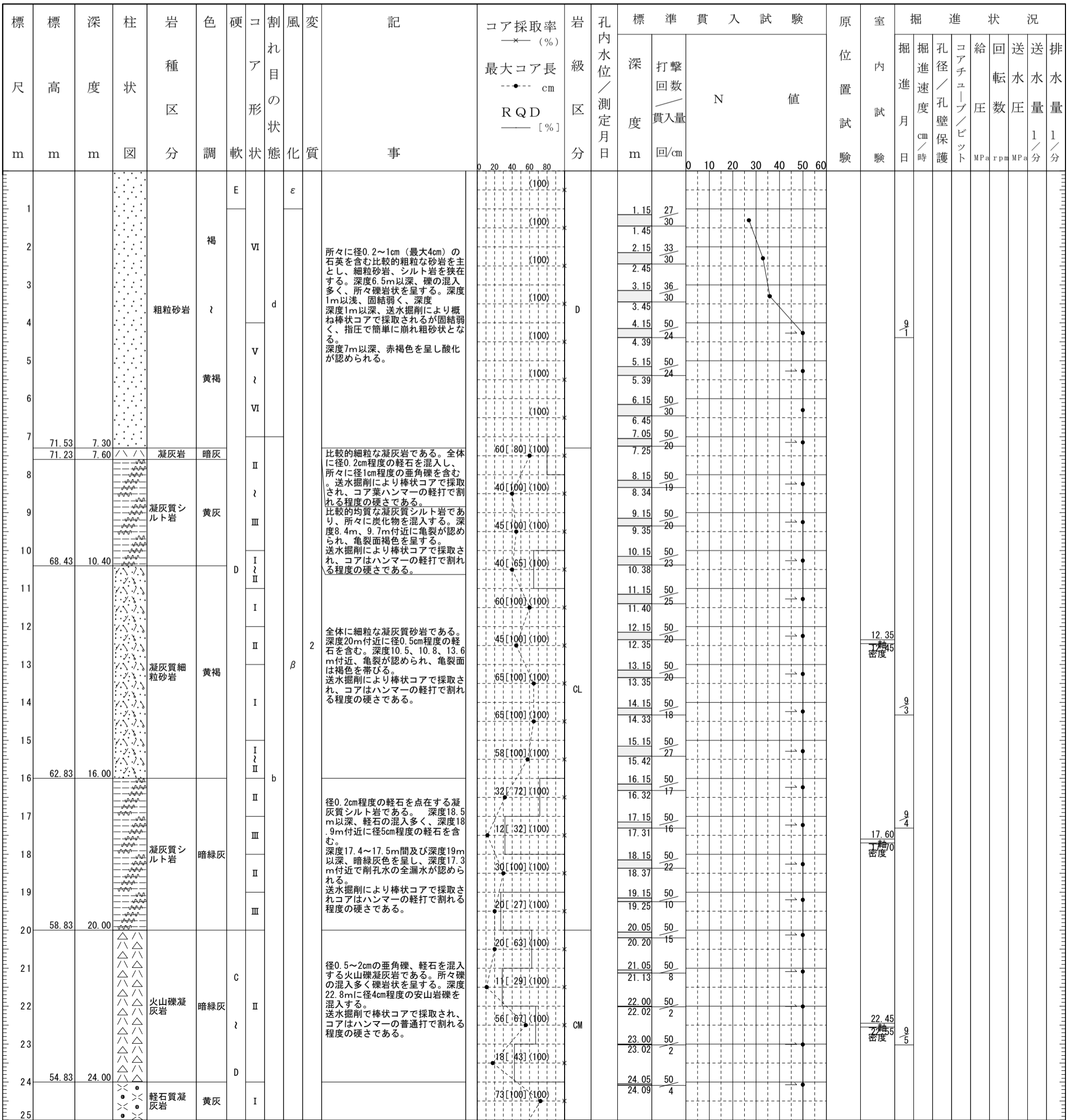
調査名 地質調査委託

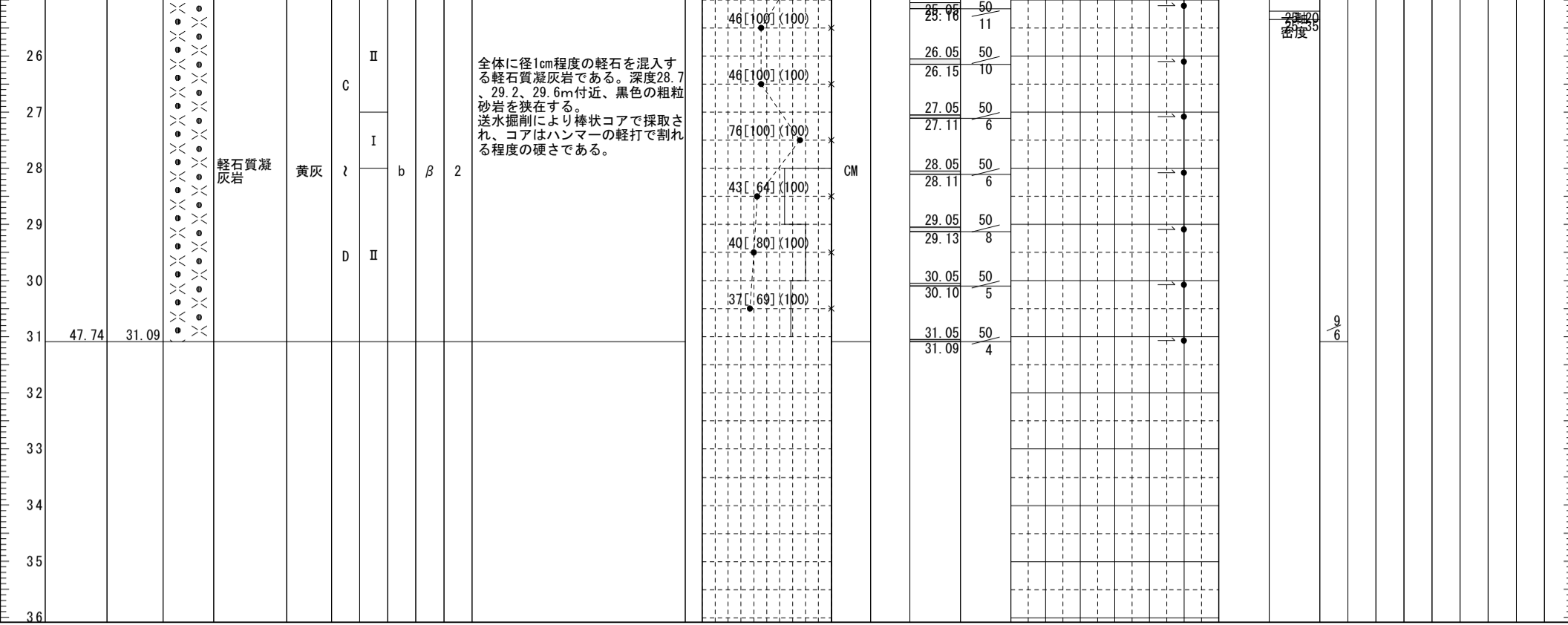
ボーリングNo. 57400538004

事業・工事名

シートNo.

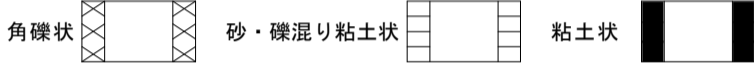
ボーリング名	No4		調査位置	(仮称) 仙南クリーンセンター[角田市毛萱字西ノ入地内]				北緯	38° 01' 44.3600"								
発注機関	仙南地域広域行政事務組合				調査期間	平成24年 9月 1日～平成24年 9月 6日		東経	140° 43' 31.6200"								
調査業者名	東北ボーリング株式会社 電話 022-288-0321		主任技師	遠藤 廣行		現代理人	菊地 真		コ鑑定者	菊地 真	ボーリング者	後藤 謙太					
孔口標高	H 78.83m		角	180° 上 下 0°		方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°		地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°		使用機種	試錐機 東邦D-1 エンジン NFD-9		ハンマー落下用具	半自動型	
総掘進長	31.09m		度	90°		向			ポンプ	BG-3B							





< 凡例 >

断層・破碎帯・変質帯



コア硬軟区分判定表

記号	硬軟区分
A	極硬、ハンマーで容易に割れない。
B	硬、ハンマーで金属音。
C	中硬、ハンマーで容易に割れる。
D	軟、ハンマーでポロボロに砕ける。
E	極軟、マサ状、粘土状。

コア割れ目状態判定表

記号	割れ目状態区分
a	密着している。あるいは分離しているが割れ目沿いの風化・変質は認められない。
b	割れ目沿いの風化・変質は認められるが、岩片はほとんど風化・変質していない。
c	割れ目沿いの風化・変質は認められ軟質となっている。
d	割れ目として認識できない角礫状、砂状、粘土状コア。

備考

風化区分表

記号	風化の程度
α	非常に新鮮である。
β	新鮮である。層理面、劈開に沿ってわずかに変色があり割れ易い。
γ	弱風化している。層理面、劈開に沿って風化している。
δ	風化している。岩芯まで風化している。ハンマーで簡単に崩せる。
ε	強風化している。褐色化し、指先で簡単に崩すことができる。

変質区分表

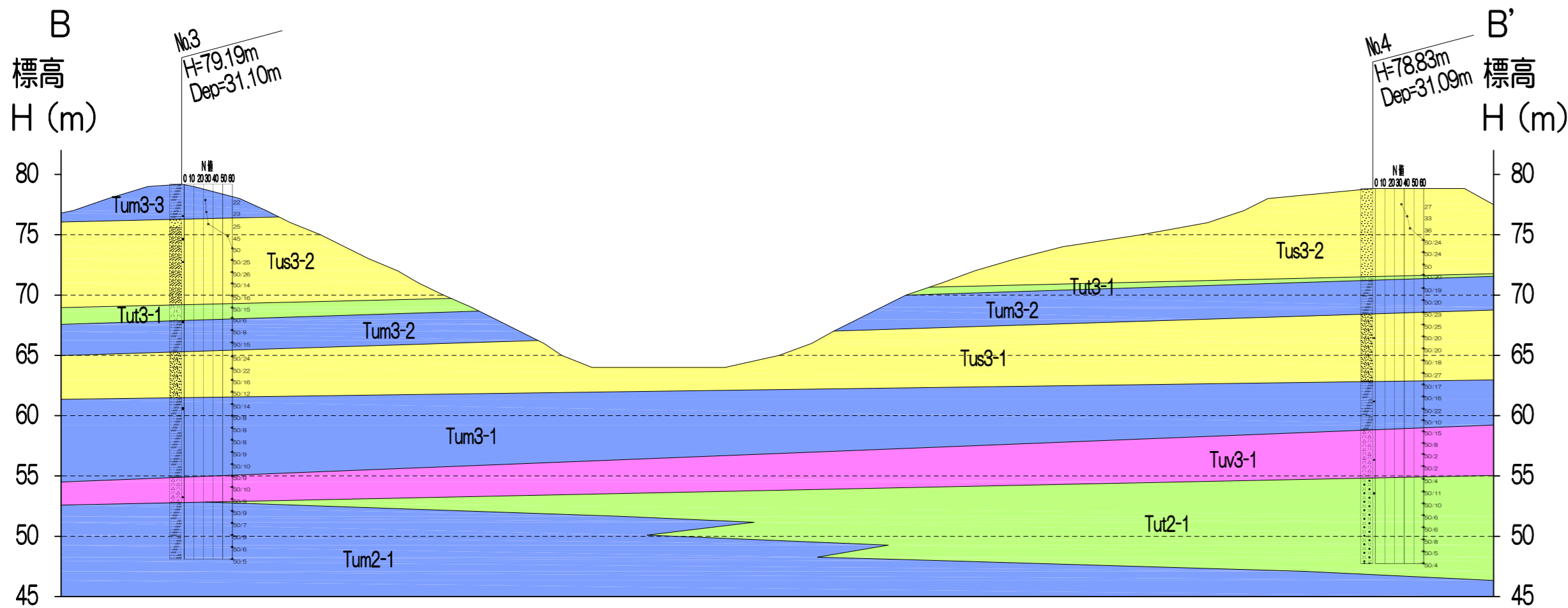
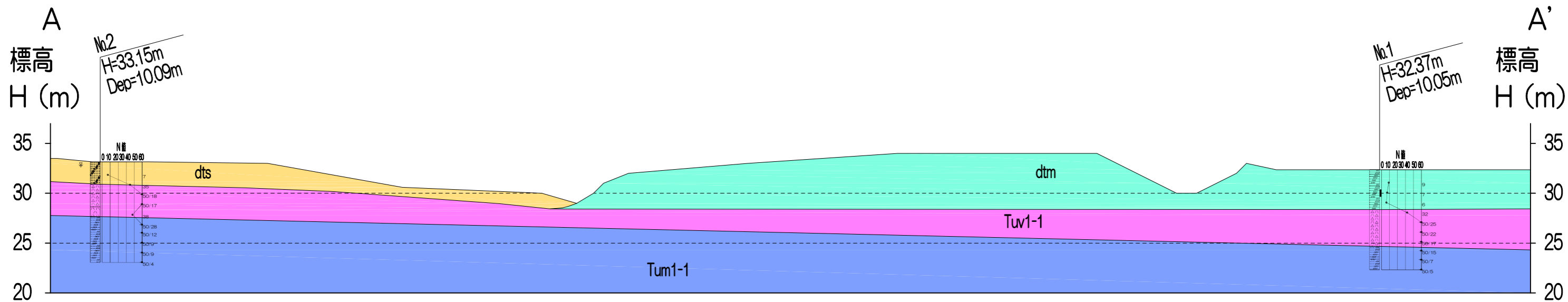
記号	変質区分	変質状況
1	非変質	肉眼的に変質鉱物が認められないもの。
2	弱変質	原岩組織を完全に残し、変質程度が低いもの。または、非変質部の割合が肉眼で50%以上のもの。
3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判断できるが原岩組織を明らかに残し、原岩判定が容易なもの。または、非変質部を残すものおよび網状変質部。
4	強変質	構成鉱物、岩片等変質鉱物で完全置換され、原岩組織を全くほとんど残さないもの。

コア形状区分判定表

記号	模式図	コア形状
I		長さが50cm以上の棒状コア。
II		長さが50~15cmの棒状コア。
III		長さが15~5cmの棒状~片状コア。
IV		長さが5cm以下の棒状~片状コアでかつコアの外周の一部が認められるもの。
V		主として角礫状のもの。
VI		主として砂状のもの。
VII		主として粘土状のもの。
VIII		コアの採取が出来ないもの。スライムも含む。(記事欄に理由を書く)

岩級区分基準表

岩級	特徴
A	きわめて新鮮なもので造岩鉱物および粒子は風化、変質を受けていない。キレツ、節理はよく密着しそれらの面に沿って風化の跡は見られないもの。ハンマーによって打診すれば澄んだ音を出す。
B	岩質堅硬で開口した(たとえ1mmでも)キレツあるいは節理はなく、よく密着している。ただし、造岩鉱物および粒子は部分的に多少風化、変質が見られる。ハンマーによって打診すれば澄んだ音を出す。
C H	造岩鉱物および粒子は石英を除けば風化作用を受けてはいるが岩質は比較的堅硬である。一般に褐鉄鉱などに汚染せられ、節理あるいはキレツの間の粘着力はわずかに減少しており、ハンマーの強打によって割れ目に沿って岩塊が剥脱し、剥脱面には粘土質物質の薄層が残ることがある。ハンマーによって打診すれば濁った音を出す。
C M	造岩鉱物および粒子は石英を除けば風化作用を受けて多少軟質化しており、岩質も多少軟らかくなっている。節理あるいはキレツの間の粘着力は減少しており、ハンマーの普通程度の打撃によって、割れ目に沿って岩塊が剥脱し、剥脱面には粘土質物質が残ることがある。ハンマーによって打診すれば多少濁った音を出す。
C L	造岩鉱物および粒子は風化作用を受けて軟質化しており、岩質も軟らかくなっている。節理あるいはキレツの間の粘着力は減少しており、ハンマーの打撃によって、割れ目に沿って岩塊が剥脱し、剥脱面には粘土質物質が残る。ハンマーによって打診すれば濁った音を出す。
D	岩石鉱物および粒子は風化作用を受けて著しく軟質化しており、岩質も著しく軟らかい。節理あるいはキレツの間の粘着力はほとんどなく、ハンマーによってわずかな打撃を与えるだけでずれ落ちる。剥脱面には粘土質物質が残る。ハンマーによって打診すれば著しく濁った音を出す。



凡例 地質層序表

地質時代	地層名	地質名	記号	厚 (m)	層 数	記 事
第四紀	新第四紀	礫状シルト質砂	dts	2.25	7	径 0.2~1 cmの歪角礫を混入する礫まじりシルト質砂である。径 3 cm程度の礫層を含み、所々シルト分多層状を呈する。深度 0.3 m以下は礫層、草叢等を混入し、表土化している。
		火山灰質粘土	dtm	4.00	6~8	全層に火山灰質な粘土であり、所々に径 0.2 cm程度の礫石、径 1 cm程度の角礫を混入する。深度 0.5 m以下は暗褐色を呈し表土化している。
第三紀	中新世	凝灰質シルト層3	Tum3-3	2.90	22~23	径 1 cm程度の石炭を混入する凝灰質シルト層を主とする。所々砂層を挟み、砂層は石炭を多く含む赤褐色を呈する。
		砂岩	Tum3-2	7.10~7.30	25~50/14	凝灰質、礫状砂層からなり、所々径 0.2~1 cmの石炭を含む。凝灰質は所々礫の混入が多く礫層を呈する。凝灰質層中には炭化層を含む。
		凝灰岩	Tut3-1	0.30~1.30	50/15~50/9	径 0.2~1 cmの石炭、礫石を含む凝灰岩である。
		凝灰質シルト層2	Tum3-2	2.60~2.80	50/23~50/8	比較的均質な凝灰質シルト層であり、炭化層を混入し所々亀裂が認められる。
		凝灰質礫状砂岩	Tum3-1	3.00~5.60	50/27~50/12	全層に凝灰質凝灰質砂岩である。径 0.2~0.5 cmの礫石、二枚化石を混入する。
		凝灰質シルト層1	Tum3-1	4.00~6.00	50/22~50/8	径 0.2 cm程度の礫石を混入する凝灰質シルト層である。No4 孔で礫孔水の全層水が認められる。
		火山凝灰岩	Tuv3-1	2.10~4.00	50/15~50/2	径 0.5~2 cmの歪角礫、礫石を混入する火山凝灰岩である。所々礫の混入が多く礫層を呈する。
		礫石質凝灰岩	Tut2-1	7.00~	50/11~50/4	全層に径 1~4 cmの礫石を混入する礫石質凝灰岩である。所々礫の礫状層を挟む。
		凝灰質シルト層	Tum2-1	4.70~	50/8~50/5	比較的均質な凝灰質シルト層であり、所々凝灰質礫状砂岩を挟んで挟む。
		火山凝灰岩	Tuv1-1	3.25~3.70	32~50/17	径 0.5~1 cmの角~歪角礫を混入する火山凝灰岩である。所々礫の混入が多く礫層を呈する。
凝灰質シルト層	Tum1-1	2.25~4.50	50/28~50/4	比較的均質な凝灰質シルト層である。凝灰質礫状砂岩を挟み、炭化層を混入する。		

地質断面図 縮尺 H=1:400 V=1:400